

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
みなちから、 夢あおば	約13.6ha	571kg/10a	224kg/10a(347kg/10a)※ ※ 作柄調整後の地域の平均単収

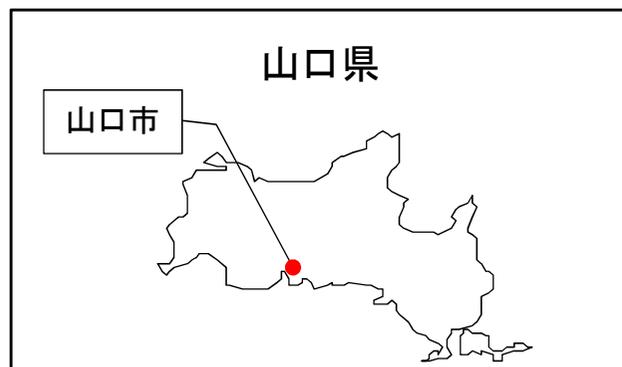


【経営概況】

- 平成20年11月、二島・上田・大里の3集落にまたがる圃場整備事業の取組を契機に、地域農業を担う経営体として設立。
- 理事9名、職員4名、作業員40名

【作付品目】

- 主食用米(ヒノヒカリ) 6.4ha
- 飼料用米 13.6ha
- 加工用米 63.1ha
- 小麦 70.3ha など



【取組のきっかけ】

- 将来的な収益確保を模索する中、飼料用米取組を検討。養鶏業者である株式会社秋川牧園(山口市)との協議により、平成22年から飼料米に取組む。

【取組概要】

- 箱施用剤は播種同時に散布。除草剤は田植えで同時施用。均平でないほ場も多いため、水位の調整や作業方法等、現場で工夫しながら実施。
- みなちからは5月末定植、夢あおばは麦収穫後6月20日頃の定植。水稻+麦の二毛作により土地利用率向上に取組む。
- プラウによるほ場の土の反転、基肥に実需者から無償提供を受けた鶏糞堆肥(1トン/10a)、追肥に硫安を使用。
- スマート農業技術を導入。食味・収量センサ付きコンバインでほ場ごとの単収を把握・分析し、肥培管理に活用。
- 新就農者の雇用による労力確保、JGAP認証取得による安全・安心な作物生産に努めている。
- 実需者と連携し、もみフレコンバッグによる流通コスト削減。複数年契約の締結など、需要に応じた生産・販売を実践。
- 実需者が主体となって、飼料用米を生産する耕種農家、農薬メーカー、行政機関等の関係者がネットワークを形成。ほ場視察会、取組の検証を通じて肥培管理等のノウハウを共有、栽培技術の向上と生産意欲の拡大を図る。